

## 2018年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年5月1日

上場会社名 株式会社ポーラ・オルビスホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 4927 URL <http://www.po-holdings.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 郷史  
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務担当 (氏名) 藤井 彰 (TEL) 03-3563-5517  
 四半期報告書提出予定日 2018年5月15日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2018年12月期第1四半期の連結業績 (2018年1月1日～2018年3月31日)

#### (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2018年12月期第1四半期	59,526	6.2	9,943	8.9	9,460	5.6	6,406	10.9
2017年12月期第1四半期	56,074	13.2	9,127	148.5	8,955	164.8	5,777	59.8

(注) 包括利益 2018年12月期第1四半期 5,560百万円(△8.5%) 2017年12月期第1四半期 6,079百万円(132.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2018年12月期第1四半期	28.97	28.93
2017年12月期第1四半期	26.12	26.09

(注) 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2018年12月期第1四半期	242,249	194,436	80.1	877.43
2017年12月期	252,567	198,845	78.6	897.26

(参考) 自己資本 2018年12月期第1四半期 194,068百万円 2017年12月期 198,453百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2017年12月期	—	25.00	—	45.00	70.00
2018年12月期	—	—	—	—	—
2018年12月期(予想)	—	35.00	—	45.00	80.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

### 3. 2018年12月期の連結業績予想 (2018年1月1日～2018年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	121,000	3.1	19,600	△6.4	19,600	△6.4	13,000	△6.8	58.78
通期	253,000	3.5	41,500	6.7	41,500	5.7	28,000	3.2	126.59

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 -社 (社名) 、除外 -社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2018年12月期 1 Q	229,136,156株	2017年12月期	229,136,156株
② 期末自己株式数	2018年12月期 1 Q	7,957,837株	2017年12月期	7,957,837株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2018年12月期 1 Q	221,178,319株	2017年12月期 1 Q	221,178,116株

(注) 当社は、2017年4月1日付で普通株式1株につき4株の割合で株式分割を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、発行済株式数 (普通株式) を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は経済情勢等様々な不確定要因により、これらの予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、【添付資料】P.4「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間（2018年1月1日～2018年3月31日）におけるわが国の経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、個人消費に持ち直しの動きが見られるなど、緩やかな回復基調が続きました。

国内化粧品市場においては、訪日観光客のインバウンド消費の伸長が続き、堅調に推移しました。なお、インバウンド消費を除く市場規模は前年並みで推移しました。海外化粧品市場においては、中国、アジアでは堅調に成長し、緩やかな拡大傾向が続いております。

このような市場環境のもと、2017年からスタートした4ヶ年中期経営計画（2017年から2020年）に基づき、国内のさらなる収益性向上と海外事業での黒字化、次世代の成長ブランド創出を達成すべく、取り組みを進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における業績は次のとおりとなりました。

当第1四半期連結累計期間の売上高は、基幹ブランドであるPOLAブランドに加え、育成ブランドであるTHREEブランド及びDECENCIAブランドの好調により、前年同期比6.2%増の59,526百万円となりました。営業利益は売上高増による売上総利益増加により、前年同期比8.9%増の9,943百万円、経常利益は前年同期比5.6%増の9,460百万円となりました。以上の結果により、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期比10.9%増の6,406百万円となりました。

## 〔業績の概要〕

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
売上高	56,074	59,526	3,452	6.2
営業利益	9,127	9,943	816	8.9
経常利益	8,955	9,460	505	5.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,777	6,406	628	10.9

## 〔セグメント別の業績〕

## 売上高（外部顧客への売上高）

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	52,345	55,821	3,476	6.6
不動産事業	675	676	1	0.2
その他	3,053	3,028	△25	△0.8
合計	56,074	59,526	3,452	6.2

## セグメント利益又は損失（△）（営業利益又は損失（△））

	前第1四半期 連結累計期間 (百万円)	当第1四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同期	
			増減額 (百万円)	増減率 (%)
ビューティケア事業	8,790	9,670	879	10.0
不動産事業	334	312	△21	△6.5
その他	△10	74	85	—
セグメント利益の調整額 (注)	13	△113	△126	—
合計	9,127	9,943	816	8.9

(注) セグメント利益の調整額とは、グループの内部取引に伴う利益及びセグメントに含まれない経費などを連結時に消去・加算した金額であります。なお、セグメント利益の調整額の詳細につきましては、P.9～10「1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報（注2）」をご覧ください。

## (ビューティケア事業)

ビューティケア事業は、基幹ブランドとして「POLA」「ORBIS」を、海外ブランドとして「Jurlique」「H2O PLUS」を、育成ブランドとして「THREE」「DECENCIA」を展開しております。

POLAブランドでは、ブランド認知向上を足がかりにさらなる事業基盤強化、ブランド価値向上を進めるべく、高機能商品の投入及び育成、戦略的な店舗網の拡大に取り組んでおります。国内市場においては、2017年に発売した日本で初めて承認されたシワを改善する薬用化粧品「リンクルショット メディカル セラム」を、2018年1月に価格改定しました。シワに悩む多くの女性の声に応えたシワを改善するという商品特長と対面カウンセリング、プロモーションでの積極的な情報発信により、顧客総数の増加と、その他商品とのクロスセルに繋がっております。加えて、好立地店舗はブランド力向上に伴い集客力が高まったことにより、好調に推移しております。海外市場においては、中華圏でのブランド認知拡大により、全体として好調に売上成長しております。以上の結果、POLAブランドは前年同期を上回る売上高となりました。

ORBISブランドでは、高収益事業へと再成長を遂げるため、ブランド差別性の創出や一貫した市場発信による、存在感の向上に取り組んでおります。国内市場においては、主力商品である「ORBIS=U」シリーズを中心としたプロモーションを強化したことにより、新規顧客の売上は増加したものの、全体の売上を押し上げるには至らず、前年同期を下回る売上高となりました。海外市場においては、中国市場及びシンガポール市場では成長トレンドを維持しております。以上の結果、ORBISブランドは前年同期を下回る売上高となりました。

海外ブランドについては、Jurliqueブランドは豪州とアジア、H2O PLUSブランドは本拠地である米国での事業成長を目指した取り組みを行ってまいりました。Jurliqueブランドは、ブランドイメージを刷新するグローバルキャンペーンを2月より開始し、新規顧客へのアピールを強化したものの、前年同期並みの売上高となりました。また、マーケティング費用が増加したことにより、前年同期を下回る営業利益となりました。H2O PLUSブランドは、販売チャネルの適正化を目的とし、主要リテーラーから撤退した影響に加え、ロシアへの出荷減により、前年同期を下回る売上高となりました。一方で、販管費を抑制したことにより、前年同期を上回る営業利益となりました。

育成ブランドについては、THREEブランドやDECENCIAブランドの好調により、前年同期を上回る売上高となりました。

以上の結果、売上高(外部顧客に対する売上高)は55,821百万円(前年同期比6.6%増)、営業利益は9,670百万円(前年同期比10.0%増)となりました。

## (不動産事業)

不動産事業では、都市部のオフィスビル賃貸を中心に、魅力的なオフィス環境の整備による賃料の維持向上と空室率の低下に取り組むとともに、子育て支援に特化した賃貸マンション事業も展開しております。当第1四半期連結累計期間は、市況や他社状況を勘案した入居条件の見直しや、ビルの価値向上に向けた取り組みを行った結果、前年同期を上回る売上高となりました。一方で、オフィス環境整備の費用が一時的に増加したことにより、前年同期を下回る営業利益となりました。

以上の結果、売上高(外部顧客に対する売上高)は676百万円(前年同期比0.2%増)、営業利益は312百万円(前年同期比6.5%減)となりました。

## (その他)

その他に含まれている事業は、医薬品事業及びビルメンテナンス事業であります。

医薬品事業では、化粧品や医薬部外品研究で培ってきた当社グループの研究成果を活用し、新規医薬品の開発・製造・販売及び医薬品の製造受託を行っております。当第1四半期連結累計期間は、重点領域である皮膚科領域にリソースを集中した継続的な活動に加え、尋常性ざ瘡治療配合剤「デュアック®配合ゲル」の販売や、2016年に発売した爪白癬治療剤「ルコナック®爪外用液5%」及び「ヘパリン類似物質外用泡状スプレー0.3%[PP]」により、前年同期を上回る売上高となりました。

ビルメンテナンス事業は、当社グループ会社を主な取引先とし、ビルの運営管理を行っております。当第1四半期連結累計期間は、人材獲得競争の激化の影響で、派遣要員の確保が進まなかったことにより、前年同期を下回る売上高となりました。

以上の結果、売上高(外部顧客に対する売上高)は3,028百万円(前年同期比0.8%減)、営業利益は74百万円(前年同期は営業損失10百万円)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ10,317百万円減少し、242,249百万円（前連結会計年度末比4.1%減）となりました。主な増減項目は、余剰資金の運用による投資有価証券の増加10,140百万円により増加し、一方で現金及び預金の減少13,131百万円、受取手形及び売掛金の減少2,060百万円、有価証券の減少6,899百万円により減少しております。

負債につきましては、前連結会計年度末に比べ5,908百万円減少し、47,812百万円（前連結会計年度末比11.0%減）となりました。主な増減項目は、短期借入金の減少1,600百万円、未払法人税等の減少3,152百万円により減少しております。

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ4,408百万円減少し、194,436百万円（前連結会計年度末比2.2%減）となりました。主な増減項目は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上6,406百万円により増加し、一方で為替の影響による為替換算調整勘定の減少887百万円、剰余金の配当9,953百万円により減少しております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、2018年2月14日に発表しました業績予想に変更はありません。

## (参考情報)

## 前期累計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 56,074	百万円 117,378	百万円 177,846	百万円 244,335
営業利益	9,127	20,944	30,546	38,881
経常利益	8,955	20,944	30,791	39,250
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,777	13,955	21,014	27,137

## 前期会計期間実績

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上高	百万円 56,074	百万円 61,304	百万円 60,468	百万円 66,489
営業利益	9,127	11,817	9,601	8,334
経常利益	8,955	11,988	9,846	8,459
親会社株主に帰属する 四半期純利益	5,777	8,177	7,058	6,123

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	76,962	63,831
受取手形及び売掛金	29,435	27,375
有価証券	23,899	16,999
商品及び製品	13,740	15,036
仕掛品	1,150	1,131
原材料及び貯蔵品	4,505	4,875
その他	12,106	12,132
貸倒引当金	△44	△46
流動資産合計	161,756	141,336
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	19,396	19,480
土地	13,069	14,688
その他（純額）	12,862	12,051
有形固定資産合計	45,329	46,220
無形固定資産		
のれん	883	804
商標権	9,026	8,361
その他	6,393	6,285
無形固定資産合計	16,303	15,451
投資その他の資産		
投資有価証券	21,943	32,083
その他	7,318	7,246
貸倒引当金	△83	△88
投資その他の資産合計	29,178	39,241
固定資産合計	90,810	100,912
資産合計	252,567	242,249

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2017年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年3月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	6,369	6,164
短期借入金	1,600	—
未払法人税等	4,223	1,070
賞与引当金	1,589	1,839
ポイント引当金	3,678	3,169
その他の引当金	221	31
その他	23,014	23,151
流動負債合計	40,696	35,425
固定負債		
その他の引当金	53	53
退職給付に係る負債	4,378	4,303
その他	8,592	8,030
固定負債合計	13,024	12,387
負債合計	53,721	47,812
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,000
資本剰余金	90,240	90,240
利益剰余金	98,273	94,727
自己株式	△2,188	△2,188
株主資本合計	196,326	192,779
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	8	8
為替換算調整勘定	2,929	2,042
退職給付に係る調整累計額	△810	△762
その他の包括利益累計額合計	2,127	1,288
新株予約権	260	244
非支配株主持分	131	124
純資産合計	198,845	194,436
負債純資産合計	252,567	242,249



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)
売上高	56,074	59,526
売上原価	9,320	9,445
売上総利益	46,753	50,081
販売費及び一般管理費		
販売手数料	12,633	13,700
販売促進費	4,946	5,091
広告宣伝費	1,949	2,524
給料手当及び賞与	4,777	4,912
賞与引当金繰入額	1,085	1,135
ポイント引当金繰入額	2,386	2,253
その他	9,846	10,520
販売費及び一般管理費合計	37,626	40,137
営業利益	9,127	9,943
営業外収益		
受取利息	53	47
その他	54	108
営業外収益合計	107	155
営業外費用		
支払利息	17	16
為替差損	255	600
その他	6	21
営業外費用合計	279	638
経常利益	8,955	9,460
特別利益		
為替換算調整勘定取崩益	5	—
新株予約権戻入益	—	26
その他	2	0
特別利益合計	7	26
特別損失		
固定資産売却損	19	0
固定資産除却損	109	17
その他	0	2
特別損失合計	128	19
税金等調整前四半期純利益	8,834	9,467
法人税、住民税及び事業税	2,904	3,411
法人税等調整額	152	△348
法人税等合計	3,056	3,063
四半期純利益	5,777	6,403
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△0	△2
親会社株主に帰属する四半期純利益	5,777	6,406

## 四半期連結包括利益計算書

## 第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年1月1日 至2017年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年1月1日 至2018年3月31日)
四半期純利益	5,777	6,403
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5	△0
為替換算調整勘定	277	△891
退職給付に係る調整額	18	48
その他の包括利益合計	302	△843
四半期包括利益	6,079	5,560
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	6,074	5,567
非支配株主に係る四半期包括利益	5	△7

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年1月1日 至 2017年3月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	52,345	675	53,020	3,053	56,074	—	56,074
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	124	140	521	661	△661	—
計	52,361	799	53,160	3,575	56,736	△661	56,074
セグメント利益又は 損失(△)	8,790	334	9,124	△10	9,113	13	9,127

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額13百万円には、セグメント間取引消去803百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△790百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

## II 当第1四半期連結累計期間(自2018年1月1日至2018年3月31日)

## 1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	ビューティ ケア事業	不動産事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	55,821	676	56,498	3,028	59,526	—	59,526
セグメント間の内部 売上高又は振替高	22	129	152	399	551	△551	—
計	55,844	806	56,650	3,427	60,078	△551	59,526
セグメント利益又は 損失(△)	9,670	312	9,982	74	10,056	△113	9,943

(注) 1 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、医薬品事業及びビルメンテナンス事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△113百万円には、セグメント間取引消去785百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△898百万円が含まれております。全社費用は、報告セグメントに帰属しない当社本社の管理部門に係る費用等であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。